

## 第1章 理念・目的

### (1) 現状説明

#### 点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点1：大学の教育にかかる基本方針（基本理念・使命・教育目的）への建学の精神の反映

評価の視点2：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点3：大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

#### 《建学の精神》

中部大学は、学校法人中部大学の中核をなす存在であり、本学の建学の精神は本法人の建学の精神そのものである。

本法人は1938年12月に認可を受け創立した名古屋第一工学校から出発し、その第1回入学式の訓辞で創立者である三浦幸平が掲げた「不言実行、あてになる人間」という考えが、本法人および本学の建学の精神となった。

この訓辞において、創立者三浦幸平は、建学の趣旨を『不言実行、あてになる人間』を信条とし、健全なる心身と卓越せる技術をもつ若き人間の育成を目的とする」と説明した。これは、常日頃から「有言不実行」を戒め「人から信頼される人間」になることを説いていた創立者の信条を反映したものである。

#### 《建学の精神と基本理念・使命・教育目的》

建学の精神はその後、本学が工学系の単科大学を経て、7学部6研究科を擁する総合大学となった今日まで綿々と受け継がれている。より具体的に、自立心と公益心、実行力、豊かな教養、専門的能力等の資質・能力条件を備えることとして捉え直し、総合大学としての諸活動に臨む基本理念を次のように制定している（資料1-1【ウェブ】）。

基本理念	中部大学は、「不言実行、あてになる人間」を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献します。
------	---

また、建学の精神と基本理念に沿って、本学はその果たすべき使命を教育・研究・社会貢献の観点から次のように設定している。

教育上の使命	豊かな教養とともに自立心と公益心をもち、広く国際的視野から物事を考え、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を世に送り出します。
研究上の使命	社会の発展に寄与する研究課題に取り組み、優れた研究成果をあげることによって、真理の探究と知の創造に貢献します。
社会貢献上の使命	さまざまな社会的活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献します。

さらに本学では、前述の「教育上の使命」に沿い、学部教育の目的と大学院教育の目的をそれぞれ次のように定めている。

学部教育の目的	本学の教育上の使命に沿い、それぞれの専門分野の基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身につけた、専門職業人／有識社会人となる人間を世に送り出します。
大学院教育の目的	本学の教育上の使命に沿い、それぞれの学術領域における高度の学識・技術／方法と、それらを実社会で効果的に活用し一層発展させる創意・工夫能力を身につけ、指導的な専門職業人／有識社会人および教育者、研究者となる人間を世に送り出します。

#### 《各学部・学科および各研究科・専攻の教育研究上の目的》

各学部・学科および各研究科・専攻では、基本理念・使命・教育目的に則り、それぞれ教育研究上の目的を、学部では学則第2条第2項（資料1-2）、大学院では大学院学則第6条第2項に規定している（資料1-3）。

例えば、工学部では「個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成する」と定めている。

また、人文学部は「人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成する」と定めている。

大学院応用生物学研究科は「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを基盤とする複合的な学術領域における教育研究を行い、有能な人間の育成及び研究を通じて社会に貢献する

ことを目的とする」と定めている。

このように、各学部・研究科の目的は理系・文系の違いやその専門性・特色を反映し、重きを置くところに多少の違いはあるが、建学の精神、基本理念・使命・教育目的と密接に関連している。

**点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。**

評価の視点1：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

評価の視点2：教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

《大学の基本理念・教育目的、学部・研究科の教育目的の適切な明示》

本学は、『学生便覧』、ホームページ等で建学の精神、基本理念・使命・教育目的を明示している（資料1-1【ウェブ】、1-4、1-5）。

学部・学科、研究科・専攻の教育研究上の目的は、学部では学則第2条第2項、大学院では大学院学則第6条第2項に明示し、それぞれ『学生便覧』、ホームページ等で公表している（資料1-6【ウェブ】、1-7【ウェブ】）。

《大学の基本理念・教育目的、学部・研究科の教育目的の教職員や学生への周知および社会への公表》

大学の基本理念・教育目的、学部・研究科の教育目的については、ホームページを通して教職員や学生に周知を図っている。特に学部学生に対しては、『学生便覧』や学期始めの履修オリエンテーション、全学部新入生必修の初年次教育科目「スタートアップセミナー」（資料1-8）などを通じて説明している。社会に対してもホームページや『大学案内』等で、より広く公表している。

また、全学部・研究科でそれぞれの教育理念・使命を啓発するため、パネルを掲示するとともに、全学部の新入生には学部ごとに教育理念・使命を印刷したクリアファイルを配付し、周知を図っている（資料1-9、1-10）。

このように、様々な手段・方法を利用して周知・公表を図ることで、基本理念・使命・教育目的の理解度向上に努めている。

**点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。**

評価の視点1：将来を見据えた中・長期の計画やその他の諸施策の設定

《中・長期の計画やその他の諸施策の設定》

本学では、大学を含めた学園全体の目的実現のために「学園ビジョン2015-2020」を策定

し、諸施策の実行計画を作成している（資料 1-11）。「学園ビジョン」では、①教育改革 ②学生の人間力育成 ③先端教育環境の整備 ④研究力の向上 ⑤女子学生の充実（女子学生比率の向上） ⑥財政基盤の確保 の基本課題とともに「学園ビジョン実行計画」を定め、その進捗状況は毎年、「学校法人中部大学運営協議会」で点検し、評議員会、理事会に報告している。また、ホームページ等で全職員に公表し、共有することにより PDCA サイクルを回し、検証・改善につなげるとともに「学園ビジョン」の達成状況を踏まえて、2021 年度以降の中・長期計画の策定にも着手している。

大学においては、次年度以降の事業計画を策定するために、各組織と大学執行部とが意見交換する「学長ヒアリング」を行っている（資料 1-12）。

## （2）長所・特色

### 1) 大学の基本理念・教育目的の設定と周知および公表

本学では、建学の精神と基本理念・教育目的を『学生便覧』や学部ごとに設置しているパネルを通して学生に周知を図っている。特に新入生に対しては、クリアファイルを配付するほかに、学生生活案内を目的とした冊子『CAMPUS LIFE』（資料 1-13）の配付や初年次教育科目、新入生オリエンテーションを利用して、基本理念・教育目的を繰り返し説明することで理解度向上につなげている。社会に対しても、ホームページや『大学案内』で建学の精神と基本理念・教育目的を公表している。

### 2) 中・長期計画とその他の諸施策の設定

「学園ビジョン」において、大学の諸施策を策定しており、毎年進捗状況を点検している。組織・財政基盤を踏まえた具体的な次年度以降の事業計画は、各組織と大学執行部とが意見交換する「学長ヒアリング」により、各組織の意見を取り込むシステムを構築している。大学全体の中・長期計画を俯瞰し、検討・判断した後、学内各組織の事業も実施に移している。これは本学の PDCA サイクルの一つの実践であるといえる。

## （3）問題点

なし。

## （4）全体のまとめ

建学の精神「不言実行、あてになる人間」は、本学の前身である名古屋第一工学校から変わっていない。1964 年に中部工業大学として設立された本学は、1984 年に経営情報学部と国際関係学部を設置し、校名を中部大学と変更した。以降、1998 年に人文学部、2001 年に応用生物学部、2006 年に生命健康科学部、2008 年に現代教育学部を設置し、現在 7 学部を擁する総合大学である。

この間「あてになる人間（信頼される人間）の育成」を尊び、全国、中でも愛知県を中心とする東海地域に有為の人材を輩出している。

## 1. 理念・目的

本学の基本理念・使命は建学の精神を敷衍し、教育、研究とともに社会貢献を重視したものである。

各学部・学科、研究科・専攻は大学の基本理念・使命・教育目的に沿ってそれぞれの教育研究上の目的を学則上に定め、各種の媒体を通して、教職員・学生に周知を図り、社会に対しても公表している。また、本学はその基本理念・使命・教育目的を実現するため「学園ビジョン」を通し、毎年の進捗状況について自己点検・評価活動により具現化を図っている。

以上のことから、大学基準に照らして適切である。